

データから見る中国パソコン市場

丁菲

1. はじめに

中国パソコン市場については発展の過程と現状を前回の ODP で把握した。今回は『中国 IT 产业地图 2007~2008』（社会科学文献出版社）を利用し、パソコン製造業をデータから見てみたい。このデータを用いて、2001 年から 2006 年までの中国パソコン市場の全体の様子を把握するとともに、具体的にノートパソコンの市場や各規模と各経済類型（所有制別）の企業の市場シェアも見てみたい。なお、下記の図は全て『中国 IT 产业地图 2007~2008』（社会科学文献出版社）の資料である。

2. 2001～2006 年中国パソコン製造業の状況

図 1 から 2001～2006 年中国パソコン製造業資産の総額の状況が見える。増加の幅は違うが、毎年の資産総額は増加していった。6 年の中で、2003 年の資産総額伸び幅が一番激しく、61.51%に達した。その後は少しずつ幅が穏やかになってきた。

図 2 から 2001～2006 年中国パソコン製造業の借入状況を見てみよう。資産の総額の増加していたように、借入額も毎年増加していた。この 6 年の中で 2003 年の借入の増加が一番激しい。その後は資産総額の変化と同じように、少しずつ増加の幅が緩やかになってきた。

図 3 から 2001～2006 年中国パソコン製造業の販売収入状況が分かる。毎年の販売収入は増加してきた。2003 年には大きな幅で増加し、その後の増加の幅は緩やかになった。資産総額と借入状況のトレンドはほぼ同じである。

図 4 から 2001～2006 年中国パソコン製造業の利潤総額の状況がわかる。前の三つの図と同じように、この 6 年の毎年の利潤総額は増加していた。しかし、2002 年の増加の幅が一番著しい。そして、2004 年の増加幅は大きく減り、2005 年少し上昇したが、また 2006 年で減った。

この四つの図から見ると、2001 年～2006 年では、2002 年の利潤が一番高く、2003 年にパソコン製造業への投資が大幅に増えた。しかし各項目ともに成長率／伸び率は減少してきているので、その成果は良くないようだ。

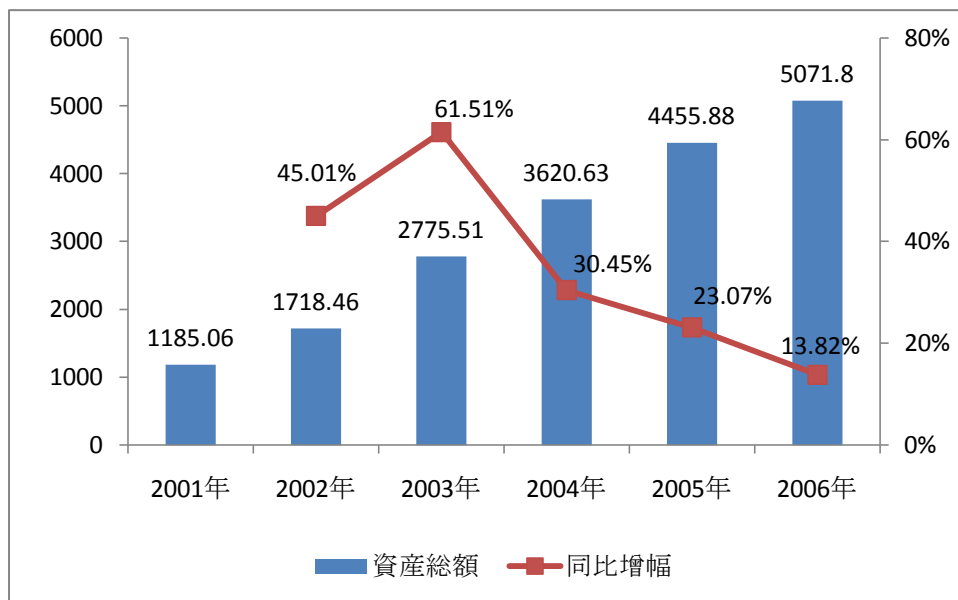


図1 2001～2006年中国パソコン製造業資産総額状況 単位：億元

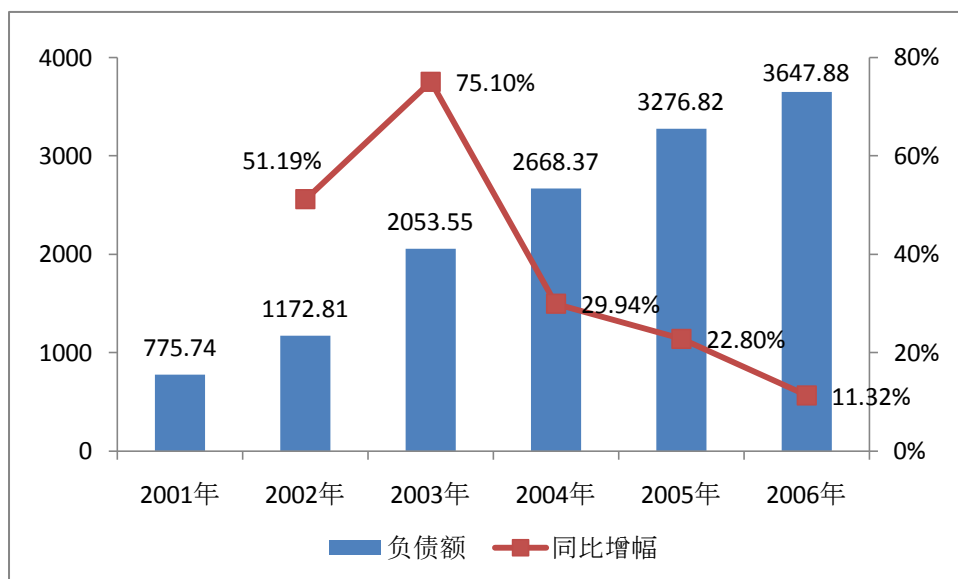


図2 2001～2006年中国パソコン製造業借金状況 単位：億元

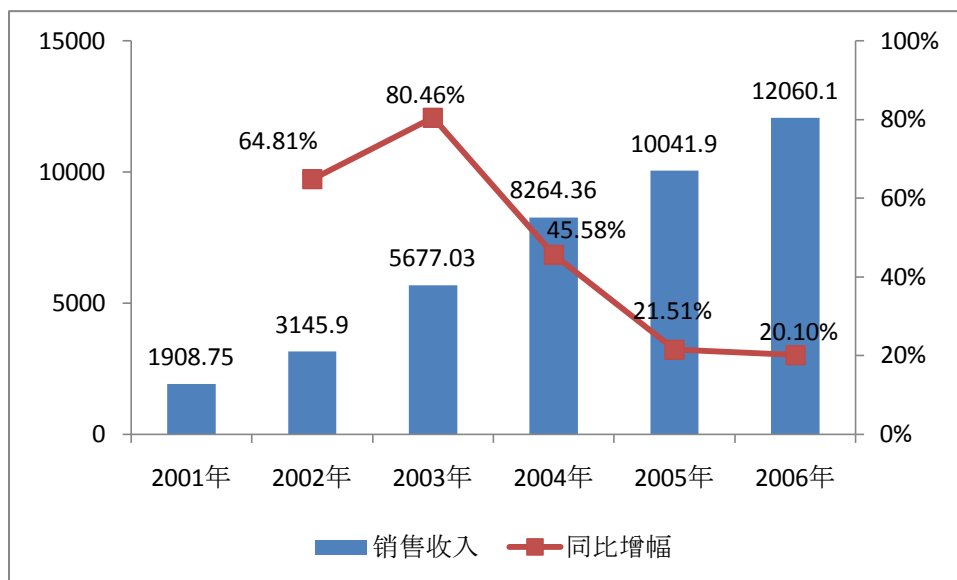


図3 2001～2006年中国パソコン製造業販売収入状況 単位：億元

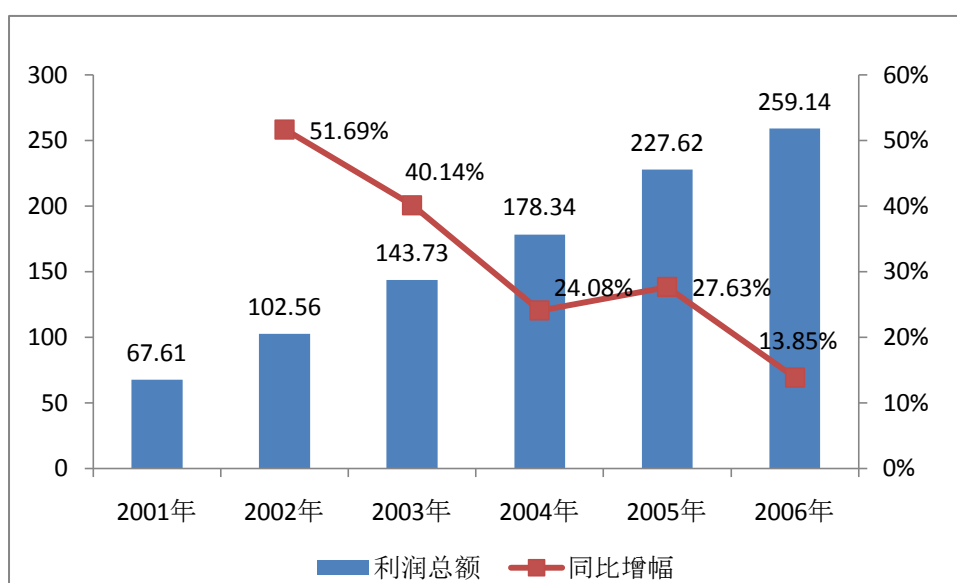


図4 2001～2006年中国パソコン製造業利潤総額状況 単位：億元

図5から2003～2006年中国パソコン製造業の企業数の変化を見てみよう。毎年増えてきたが、2005年だけの増加幅が一番大きかったにもかかわらず、2006年は9社しか増えていなかった。

図6から2002～2006年中国パソコン製造業の損失を出した企業の数を見てみよう。損失を出す企業はずっと存在していたが、2005年は337社で一番多かった。2006年の損失企業は52社で、損失の企業数は激減した。

この二つの図から、中国パソコン製造業の企業数は2003年から2005年まで増え続けていったが、損失していた企業の数も少なくなかった。しかし、2005年は損失を出した企業が激増した一方で、2006年の企業数増加は少ない。

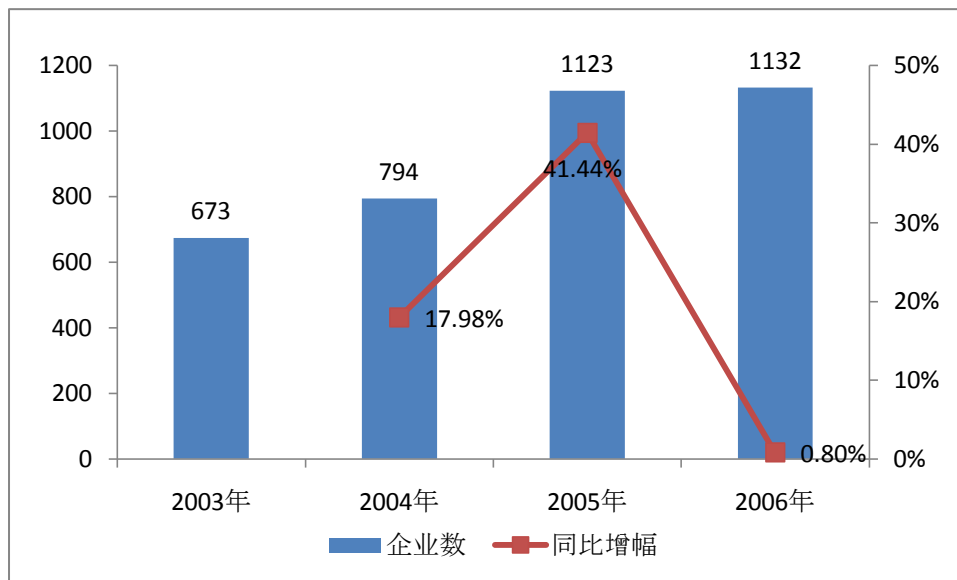


図5 2003～2006年中国パソコン製造業企業数 単位：個

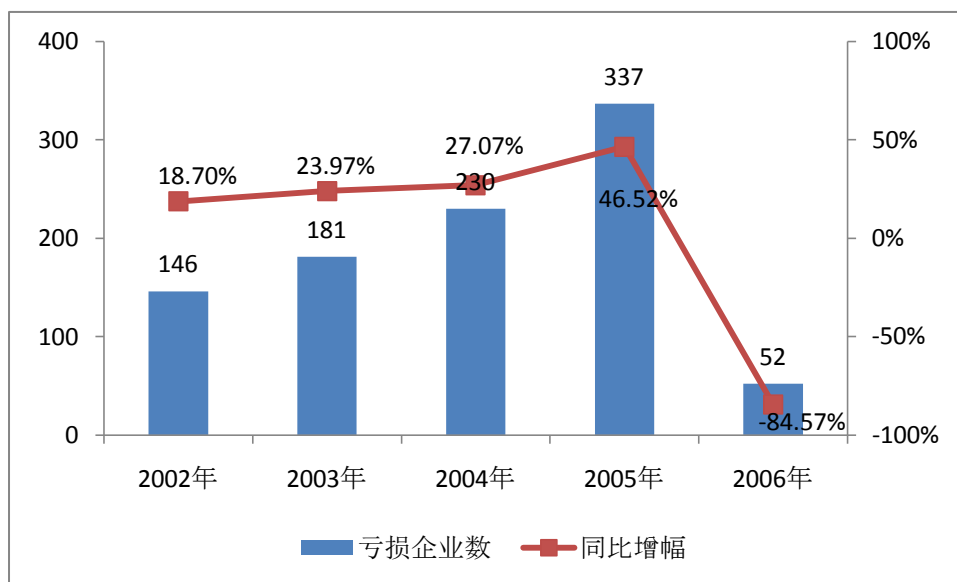


図6 2002～2006年中国パソコン製造業損失を出す企業数 単位：個

図7から2001～2006年中国パソコン製造業の従業員数が分かる。2003年の人数は大幅に増えた。その後も増えつつあったが、増加の幅はだんだん緩やかになった。

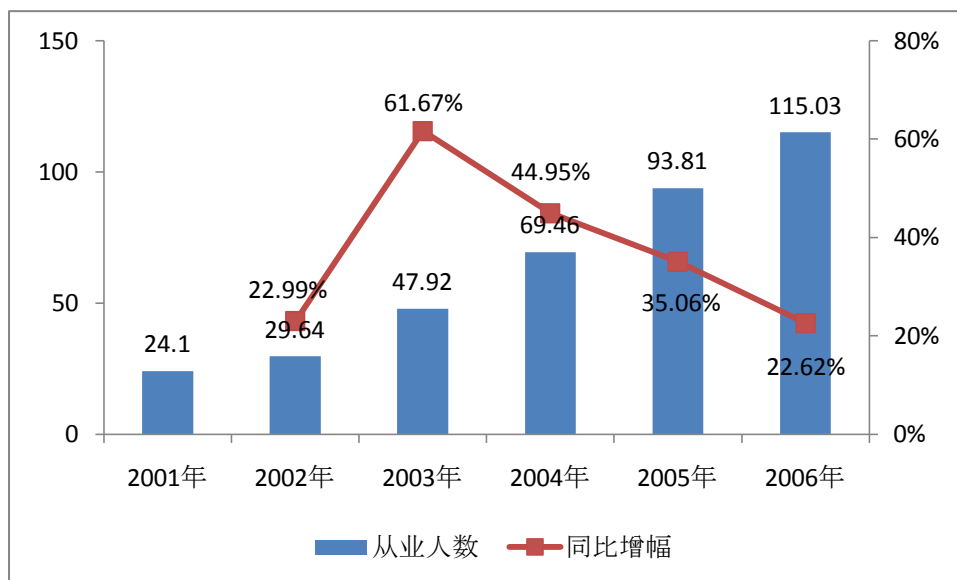


図7 2001～2006年中国パソコン製造業企業に職につく人数 単位：万人

図8によると、2003年から2006年の完成品は増加してきた。2004年から増加の幅は減ってきた。

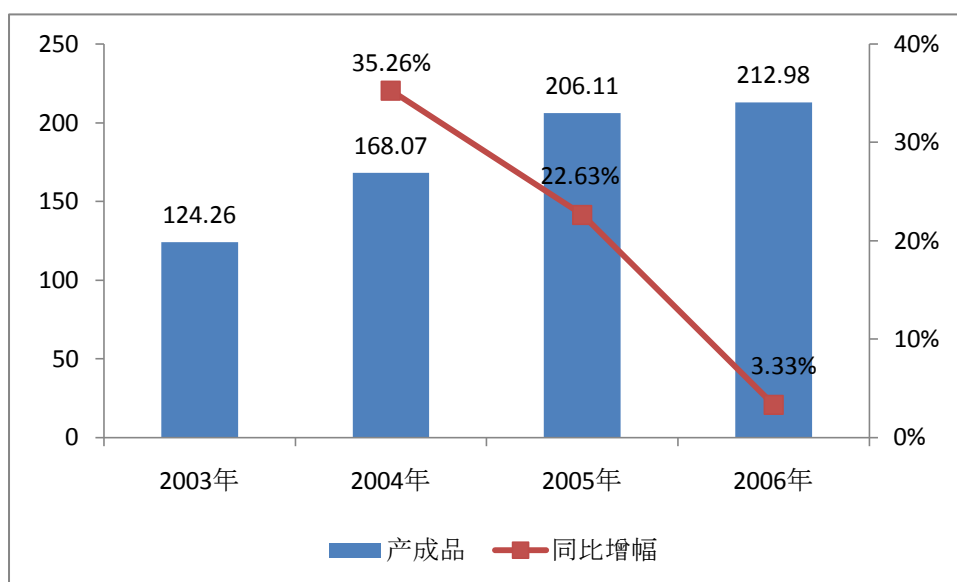


図8 2003～2006年中国パソコン製造業完成品状況 単位：億元

以上の分析から見ると、中国パソコン製造業は2002年に大きい利潤総額を得たために2003年からは資産、労働の投入量を増加したようである。しかしその投資の中では赤字になった企業もあり、2005年の赤字企業の大幅な増加と共に2006年にはパソコン製造業の資産額、企業数、従業員数が減少した。

3. 2001～2006年中国ノートパソコンの状況

表1からみると、2001～2006年中国ノートパソコンの生産量も販売量も2003年で大幅に増えた。その後は徐々に増加してきた。2003年から市場の需要量は減り（生産超過額の台数は161万台まで増えた）、

2005年の余った量は364万台となり、生産と販売のバランスが良くないため、生産の量が減った。だが、2006年の余った数量は-650.5万台から見ると生産量が足りなかった。

	生産量	販売量	生産超過額
2001	923	911	12
2002	1463	1447	28
2003	3216	3083	161
2004	5976	5975	162
2005	8084	7882	364
2006	9336.4	10350.9	-650.5

表1 2001～2006年中国ノートパソコン生産量と販売量状況 単位：万台

図9と図10から2003～2006年中国ノートパソコンの輸出量と額がわかる。2004年の伸び幅は大きく増加し、その後はだんだん緩やかになった。

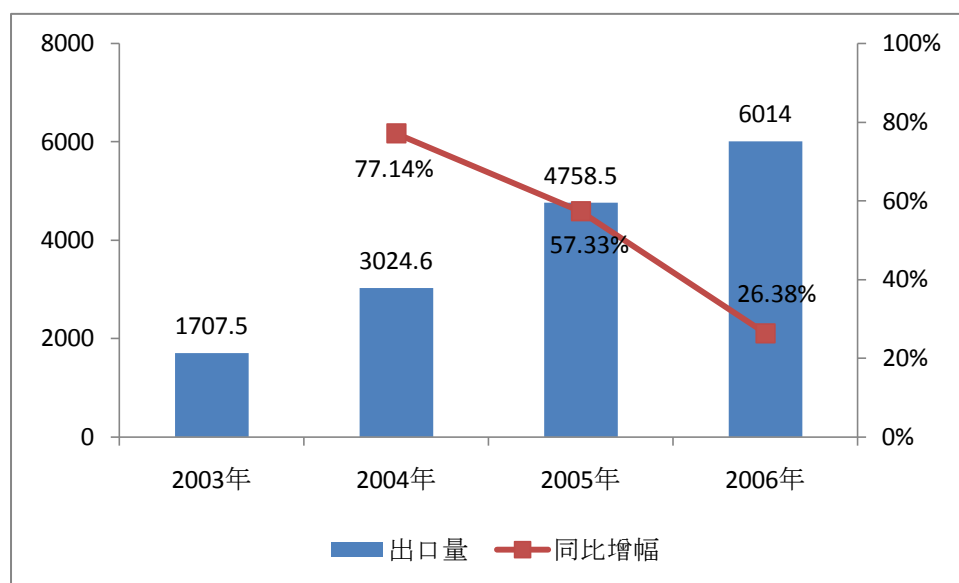


図9 2003～2006年中国ノートパソコン輸出量状況 単位：万台

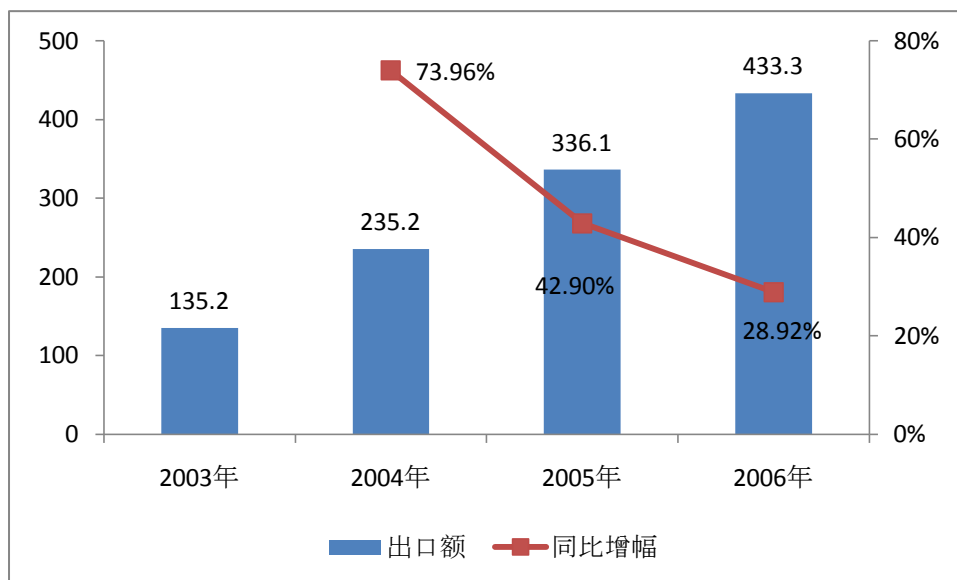


図 10 2003～2006 年中国ノートパソコン輸出額状況 単位：億米ドル

以上 2 つの図と表 1 から、中国ノートパソコンの需要量は毎年増加していたことが分かる。輸出するノートパソコンは 2004 年に大きな幅で増加した。2003 年の生産量が大幅に増加したが、2005 年には損になり、生産が減少した。図 5 と図 6 の状況とは一致している。

4. 2006 年中国パソコン製造業各種類の企業比較

図 11 と図 12 から見ると、2006 年の中国パソコン製造業の企業の中に大型企業の生産額と利潤総額が一番多かった。小型企業の総生産額は成長率は大きく、利潤総額も著しく増えた。この小型企業は中国パソコン市場の特殊な「兼容機」の存在と関係あると考えられる。

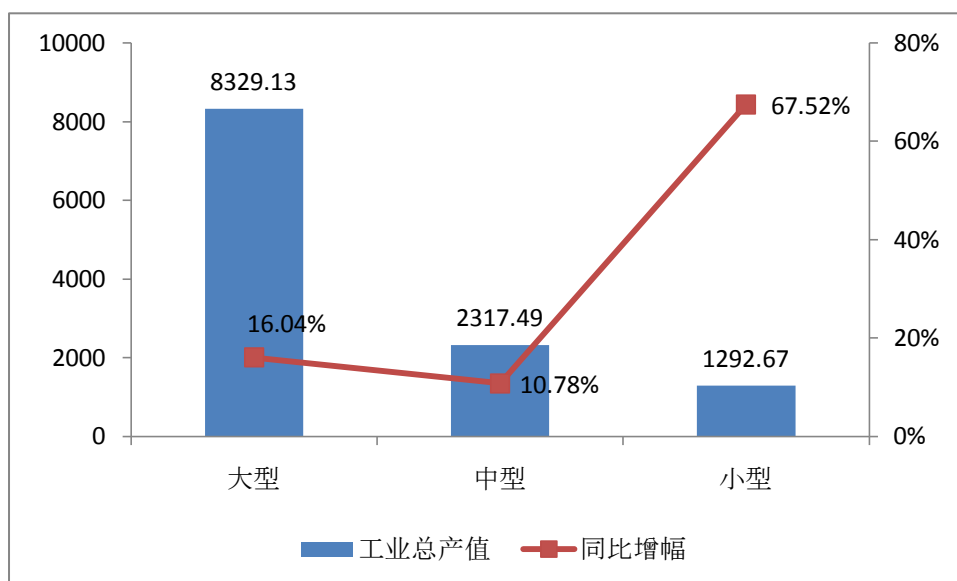


図 11 2006 年中国パソコン製造業各規模企業工業総生産額比較 単位：億元

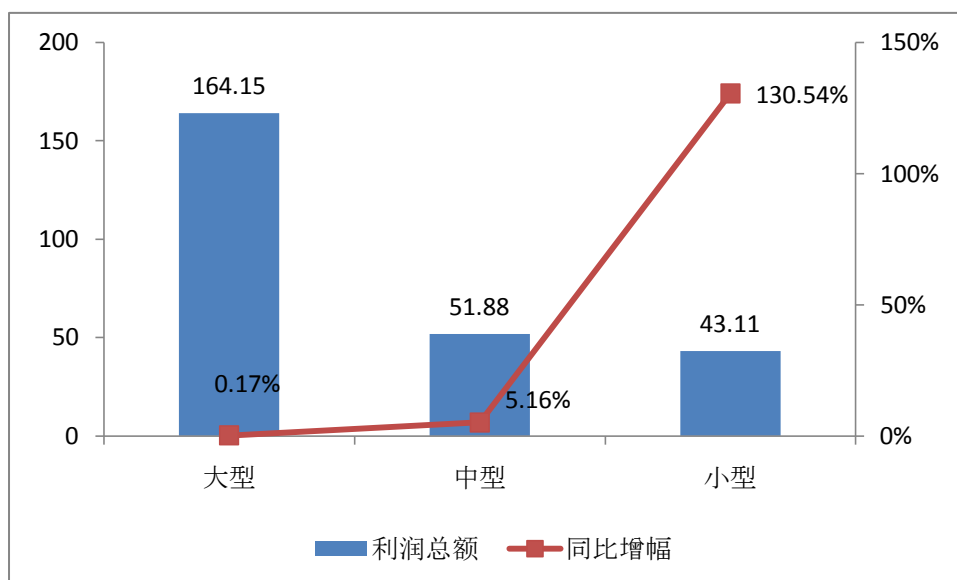


図 12 2006 年中国パソコン製造業各規模企業利潤総額比較 単位：億元

図 13、図 14、図 15、図 16 から見ると、中国パソコン製造業では、外資系企業（香港、マカオと台湾含む 以下同じ）の数が一番多く、利潤総額、税金総額と販売収入も一番多い。各経済類型（所有制別）の企業の中で、外資系企業、株式制企業、私営企業とその他の利潤総額は増加した。集団企業、株式の共同企業と国有企業の利潤総額は増加しなかった。外資系企業、株式制企業、国有企業、私営企業とその他の販売収入は増加した。株式合作企業と集団企業の販売収入は増加しなかった。

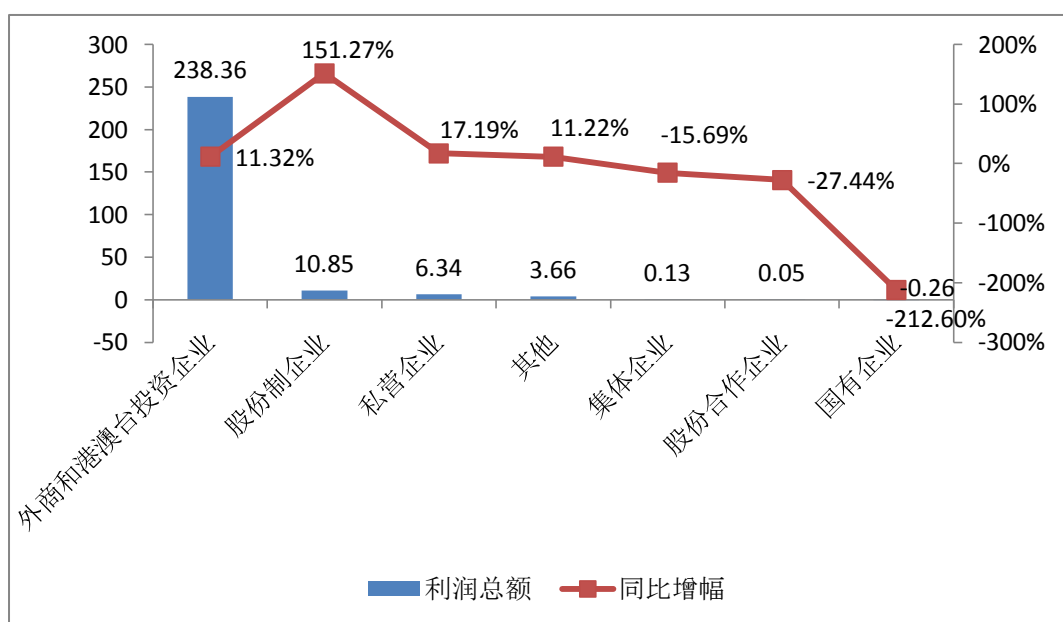


図 13 2006 年中国パソコン製造業各経済類型企業利潤比較 単位：億元

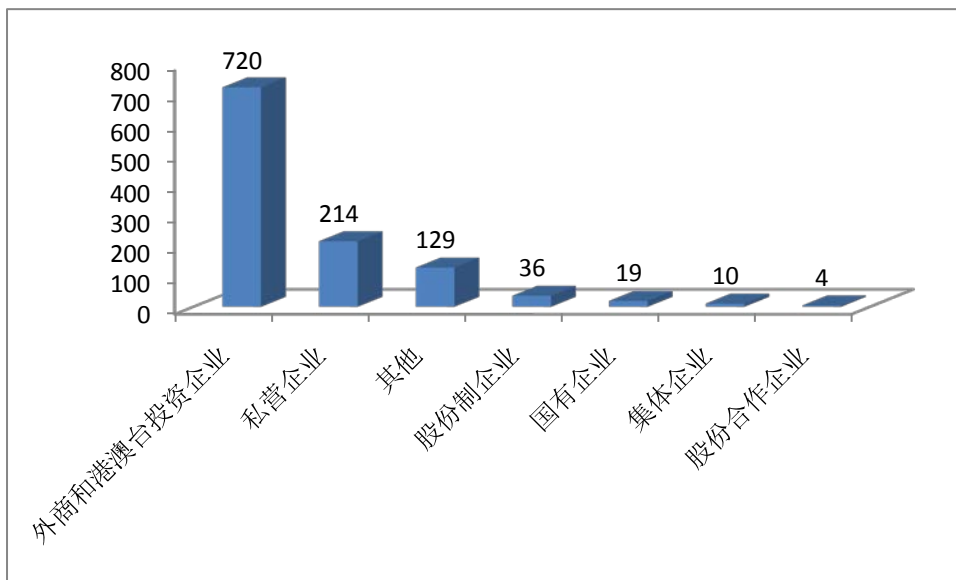


图 14 2006 年中国パソコン製造業各経済類型企業数 单位：個

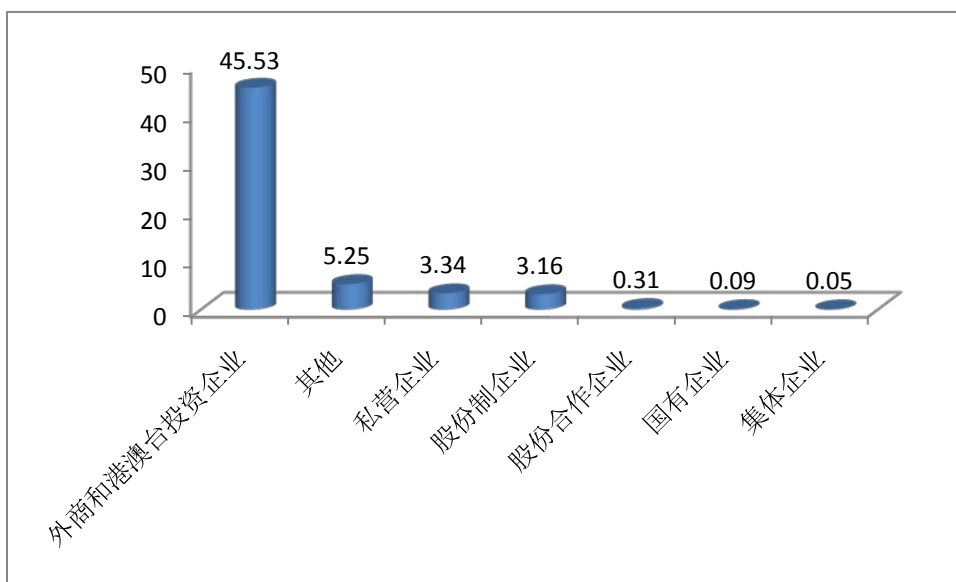


图 15 2006 年中国パソコン製造業各経済類型企業の税金額 单位：億元

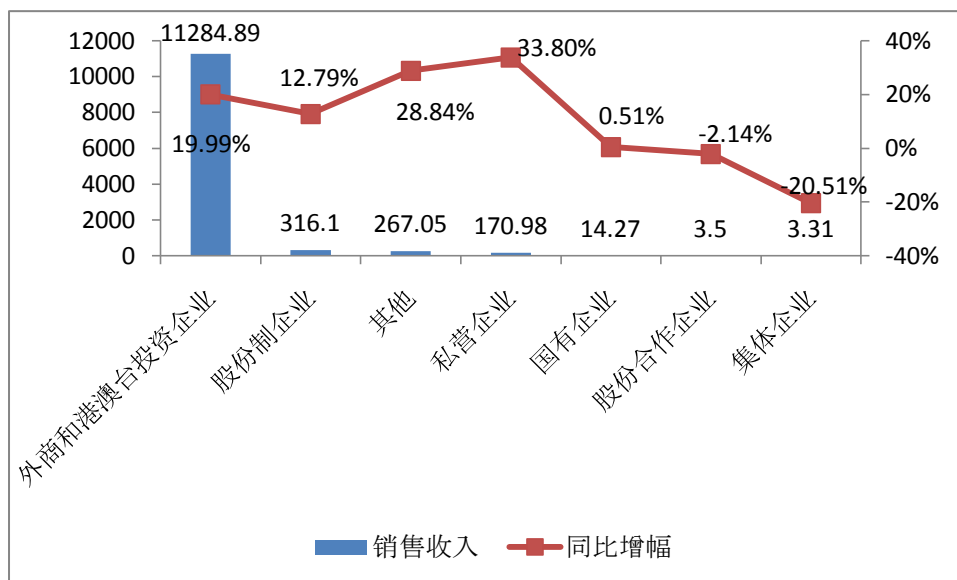


图 16 2006 年中国パソコン各経済類型企業販売収入 単位：億元

以上の図から見ると、中国 2006 年パソコン製造業では、外資系企業が一番活躍した。規模から見ると、大型の企業が多いが、小型の企業は幅大きく発展していた。

5. 2006 年中国PC市場状況

図 17 と図 18 から見ると、中国 PC 市場規模は伸びていた。デスクトップのシェアが一番多く、ノートパソコンの需要が多くなってきた。中国産業地図編纂委員会 中国経済景気観測（2007 P. 64）によると、2006 年 PC 市場販売量は 2337.3 万台に達した。2005 年と比べると 17.5% 増えた。販売額は 1304.4 億元、2005 年より 7.7% 増えた。

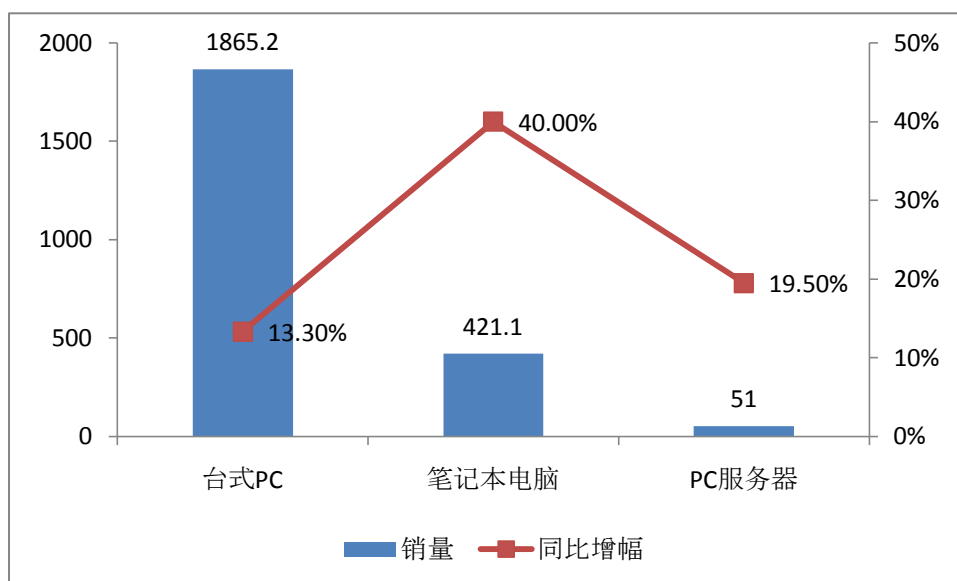


图 17 2006 年中国 PC 市場規模と増加状況 単位：万台

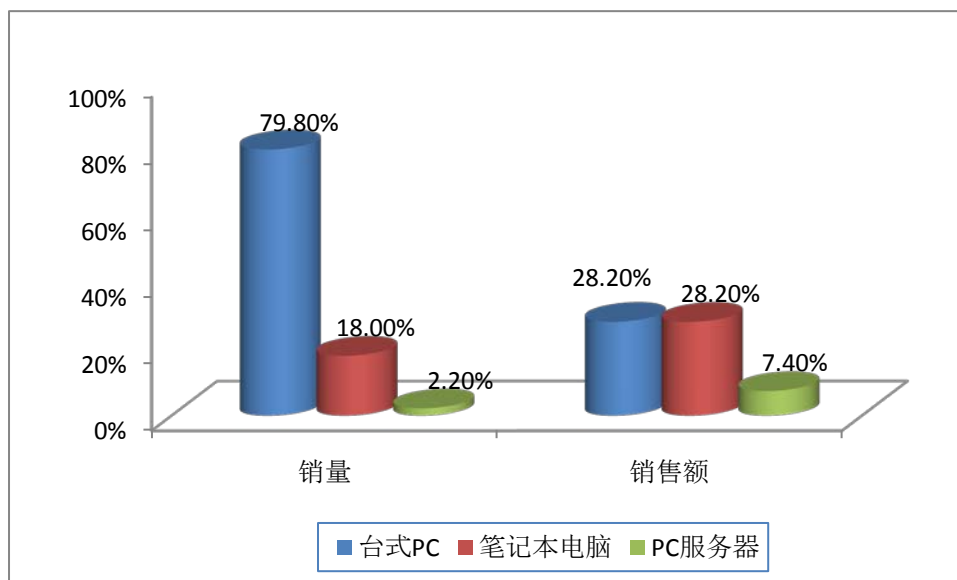


図 18 2006 年中国 PC 市場産業構成

6. おわりに

以上から 2006 年の中国パソコン製造業は緩やかに発展してきたことが分かる。図 4 から 2002 年の利潤総額の伸び幅は 51.69%に達した。この誘引として、2003 年の投資も労働も大幅に増加し、パソコン市場では大きな躍進だと考えられる。この発展の趨勢は 2005 年に破綻が現れ、損失を出す企業数は 337 社になった。2006 年のパソコン製造業企業は 9 社だけ増加したのは、2005 年の損失と関わりがあるかもしれない。事実上、2006 年は発展のスピードが抑え、市場の需要によって緩やかに発展してきた。

中国のパソコン市場で、外資系企業のシェアが一番大きい。外資系企業数は 720 社で、第二位の私営企業は 214 社がある。中国第一位の聯想（レノボ）が IBM の PC 部門買収に代表とし、パソコン業内の企業は国際的になりつつあると考えられる。大型企業の総生産額も利潤総額も一番多いが、2006 年に小型の企業は幅大きく発展してきた。この現象は中国の「兼容機」の市場と関わりがあると考えられる。PC の中にデスクトップのシェアが一番大きいですが、ノートパソコンが速いスピードで発展してきた。

<参考文献リスト>

中国産業地図編委会中国経済景気観測中心(2007)『中国 IT 産業地図 2007~2008』社会科学文献出版社